

○安藤あいこ(建築)

最初の現場は、国道 32 号線池田大橋耐震工事を見学し 500t ほどの荷重を 6 つの支承で支えていて、その支承をもとの鉄から地震の衝撃を吸収できるゴム製の支承に取り換える作業と、トラス桁に新しい桁をかぶせて補強する耐震工事を間近に見ることができました。支障の取り換えはジャッキで 2 ミリほど上げ、その小さい隙間で置き換えることがわかりました。1 番大きな支承は、見学に行ったときにはまだ取り換えられていなかったもので、資料と元の構造を見比べることができました。トラス桁の補強は実際に作業をしていて、4 人ほどで 150 キロ程の桁を持ち上げ、トルシアボルトというボルトで固定していました。トルシアボルトは、ねじ部分とナットで挟んで締めるボルトで、実際に持つと普段触るねじよりすごく重かったです。このナットを片手で持って重たい工具で締めているのがすごいと思いました。作業員は常時 3 人で多いときに 45 人程で、今回は 25 人程だったそうです。足場はチェーンで吊っているのが目に見てもわかりました。チェーンとチェーンの間の一スパンで約 190 キロも支えることができるそうです。橋の下に入らせていただいて実際に補強作業を見学できるというのは、めったにできない体験なので、よかったです。足場が安定していたのですごいと思いました。

2 つ目の現場は古川樋門新設工事の見学に行き、この現場は、定置式水平ジブクレーンという大きなクレーンが印象的な現場でした。実際にジブクレーンを操作して簡単でしたが、左右旋回の揺れが危ないと思いました。地元だったので、この現場の横を通ることもありましたが、工事内容は知らなかったの、見学に行けてよかったです。

3 つ目の現場は貞光川漏水対策工事の見学で、そこで紹介された測量が一番印象に残っています。1 人で高さや距離が測量できるのがすごいと思いました。

今回の現場見学会で、普段の生活や実習ではいけない実際の現場を間近に見ることができ、本当に貴重な体験となりました。また、高木さんのパートナー、同級生を大事にという言葉も忘れぬよう今回の見学会で学んだことを生かし、クラスのみんなで活動していきたいと思いました。本当にありがとうございました。

○石川 蓮(土木)

僕は現場見学会に参加し建設業の面白さを改めて実感することができました。印象に残ったのは、池田大橋の耐震補強工事でした。橋の下を見る貴重な体験だったのでわくわくしました。ここでは、初めて見るような機械を見ました。ボルトを締める作業を見たときスムーズに作業していて驚きました。

他にもドローンを使った空中測量やリモコン操作ができるジブクレーンを見て技術も進んでいると思いました。今までは 2 人必要な測量も 1 人でできるようになっており、とても驚きました。学校で行っている測量よりも簡単でした。

今回の現場見学で建設会社の仕事は自分たちの暮らしの中にとって大事だと思いました。僕も街の役に立てる職に就きたいです。

教科書でしか見たことがなかったのでとてもいい体験ができました。

○今川拓海(建築)

今回、3ヶ所の現場を見て回りたくさんの事を学習する事が出来ました。自分は教科書でしか橋や道路の仕組みを勉強していなかったのが、実際に現場を見学させていただきとてもいい勉強になりました。

まず橋の下の補強工事の現場では、いつも橋の上しか通っていなかったのが何も感じませんでした。自分たちが普段から何気に通っている橋も補強していなかったら、壊れると思ったら作業をしてくれている方たちに感謝しかないと思いました。

2か所目は、樋門の工事をしている現場を見学させていただきました。そこでは、自分がまだ聞いたことのないジブクレーンという機械を見ました。作業員の方がジブクレーンは、リモコンで操作できるため、比較的簡単に誰でも操作できるとおっしゃっていて、技術がとても進歩していることに驚きました。

3ヶ所目は、つるぎ高校から歩いて行ける距離にある南建設さんの測量をしている現場を見学させていただきました。そこでは、たくさんのドローンが使われており、それを使って作業の進み具合などを確認することができるというとき、すごいなと思いました。また、測量もタブレットを使い作業する事で、今まで2人必要だったのが1人でも作業できるようになっていました。作業の効率がいいと話されていて、とても納得する事ができました。これからの社会は、必ずパソコン、タブレット端末などの電子機器を取り入れての作業をする会社が増えてくると思うので、普段から電子機器を使い、就職した時に少しでも使えるように慣れておく必要があるなと感じました。

今回、3社の現場を見学させて頂き感じたことは、自分が想像していたより仕事の現場は大変だと思いました。それと同時に、現在の現場では電子機器が多く使われていて驚きました。私は、将来建築の仕事に就きたいと思っているので、今回の貴重な現場見学会で学んだことをしっかり頭に置き、これからの建築に関する勉強を頑張っていきたいと思います。

○宇山陽都(土木)

はじめに池田大橋耐震補強工事の見学に行きました。橋の下ではいつ災害がきても橋が崩れないように補強工事をしている作業員の姿を見て僕たちが安全に暮らせているのは現場作業員のおかげだということを改めて思い、僕もこの人たちのような立派な人になりたいと思いました。

次に古川樋門工事に見学に行きました。初めてジブクレーンを操縦して建設機械に興味を持ちました。

最後に、貞光の漏水対策工事と護岸工事の見学をして最新のドローンの操縦や ICT を使った測量もして貴重な体験をしました。

僕はこの現場見学を終えて将来、人々が安全に利用できる構造物を造り、色々な人から信頼されるような人になりたいです。

○逢坂勇人(建築)

1社目は、池田大橋補強工事を見させてもらいました。地震のエネルギーを吸収したり、風の力を分散したりと橋を強化していました。150kgの鉄骨を4人で作業していました。風も強く、とても厳しい作業現場に感じました。

2社目は、古川樋門新設工事をしていました。ここでは、滅多にお目にかかることのできないジ

ブクレーンを操作させていただきました。貴重な経験をする事ができました。

3社目は、貞光川の漏水対策工事をしていました。最新のドローンなど ICT 技術を用いて人手不足を感じさせないやり方に将来の自分の夢に役立てれそうだと思います。

現場見学会で様々なことを学び、将来の選択肢が広がったので有意義な時間を過ごせたと思います。就職先はまだ考えていますが、こういうところがあるのだと頭において今後の学校生活に役立てようと思いました。とても貴重な経験ができたので良かったです。有難うございました。

○岡田龍騎(土木)

僕はこの建設現場見学会に参加して、今までは知らなかったことを知ることができました。僕たちの知らないところで災害時のために補強作業をしてくれていることを知り、とてもすごいことだと思うのと同時に建設の仕事の興味が深まりました。

僕が一番印象に残っているのは、池田大橋耐震補強工事についてです。この工事はトラス桁の補強と支承の取り換えが目的で、僕たちは現場を見学するために橋の下に降りました。橋の下の作業場は、下の川に落ちないように木の板で足場を作る工夫もしていたので、作業員の人が仕事しやすい環境だと思いました。

今回は普段の学校生活では経験のできない貴重な体験ができ、自分のためになったと思いました。この度はこのような機会をくださりありがとうございました。

○岡田蓮太(建築)

初めに、ショーボンド建設株式会社様の橋の補強工事の見学に行きました。最初に橋の下にある足場に降りました。この足場は、190 kgまで耐えることができ、根本は3tまで耐えることができることを教えてもらいました。昔から橋の下にある足場は、どのように作っているのだろうと疑問を抱いていました。そのことについて質問すると、ばらばらに作るのは危ないので、橋の片方から作っていくのだと教えてくださいました。橋の補強には、トルシアボルトという油が塗られた部品が使われていることを教えてくださいました。このトルシアボルトという部品は油が乾くと使えなくなるそうです。橋に使われるほどの部品ですから大きさはとても大きかったです。橋の補強見学という貴重な体験や知識が深まってとても楽しかったです。

次に、樋門工事を見学に行きました。そこでは、クレーンの操作や樋門の工事について教えてくださいました。まず初めに、クレーンの操作をしました。とても大きな機械を僕が動かしているということにとっても感動しました。初め、操作は難しかったのですが慣れることができ、操作できてよかったです。次に、樋門について教えていただきました。合流する川の水位が洪水などで高くなった時、その水が堤内地側に逆流しないようにする施設だと教えていただきました。樋門のおかげで僕たちは安全に暮らせているということがわかりました。貴重な体験ができて嬉しかったです。

最後に、漏水工事などについて学びました。小さいものから大きいものまで色々な種類のドローンについて教えていただきました。値段の高いもので80万円すると聞いたときはとても驚きました。ドローンを飛ばす際は第三者の家や建物から30m離れないと飛ばせないことを学びました。測量用のアプリなど最近は様々なことに最新のICTが使われていると教えていただきました。

普段教科書でしか見たことない貴重な体験、様々な知識を今回勉強することができてとてもいい経験になりました。

○尾方 慎(建築)

1つ目の建設現場は池田大橋耐震補強工事を見に行きました。普段の生活では見ることのできない橋の下を見ることができました。トラスの部分が10m以上あり、1つのトルシアボルトでも10cm程度ありました。その現場には現場監督が3人いて、他の作業員に的確な指示を出していてとても憧れました。

2つ目の現場は古川樋門新設工事を見に行きました。そこでは身近では見ることのできないジブクレーンを見ることができました。ジブクレーンの操作はとても簡単で、僕でも操作することができました。でも、クレーンが動き始めるまでに2秒ぐらい時間差がありました。建設現場では、周りを見て動かなければいけないと思いました。

3つ目と、4つ目は貞光川で漏水対策工事と護岸工事を見ました。漏水工事はコアドリルを使用してコンクリートに穴をあけていました。1つ穴をあけるのに10分くらいかかると聞き驚きました。護岸工事はドローンを使用して上空から写真を撮影しパソコンを使い3D化していました。

僕も将来、今日会うことができた現場監督やプロフェッショナルのようになりたいです。本当にありがとうございました。

○小橋遼馬(建築)

1か所目は、池田大橋の耐震補強工事を見に行きました。橋脚が10m以上あってとても迫力がありました。トルシアボルトも見せていただきました。また、通行止めにせず工事をすると聞いてとても周辺への配慮がされていてすごいと思いました。

2か所目は、古川樋門新設工事を見に行きました。そこには普段見ることのできないジブクレーンがありました。操作できていい経験ができました。

3ヶ所目は、貞光川の漏水対策工事と護岸工事を見に行きました。そこでは、ドローンの説明をして頂きました。いろいろな種類のドローンがあり、とても興味がわきました。

今回現場を初めて見て改めて思うことは、靴紐をしっかり縛るということや、ポケットに手をつっこまないという身だしなみをしっかりするということです。現場には材料を置いてあり、ひっかかるものがたくさんあります。そんなところにもし靴紐が引っかかったら大けがになります。服装の身だしなみを整えることが基本になると思いました。

○酒谷航太(建築)

初めに三好市池田町に行き、令和2年度国道32号池田大橋耐震補強工事の現場を見学させていただきました。現場を見て初めに思ったことは、規模が大きいと思ったことです。教科書でしか見たことのないような工事のスケールでした。驚いたことは、ボルトの大きさです。トルシアボルトというボルトだと教えてもらいました。普通のボルトよりも何倍も大きくて驚きました。橋の総重量は500トンあると教えてくれました。それだけの重さを支えるには、すごく大きな部品を使わなければならないと感じました。貴重な体験をありがとうございました。

2つ目に、東みよし町加茂に行き、古川樋門新設工事の現場を見学させていただきました。そこではなかなか見て触ることのできない、ジブクレーンを操作させていただくことができました。初めて、すごく大きな機械に触れて凄く感動しました。型枠工事の規模も迫力がありました。凄く貴重な体験をありがとうございました。

最後に貞光川に行き、漏水対策工事と護岸工事の現場を見学させていただきました。印象に残っ

たことがドローンを操縦しているところを見せていただいたところです。高い所まで飛んで凄いなと思いました。ドローンで撮った写真も凄くきれいで驚きました。最近の測量は、普通2人でするところを1人でできるということを知って技術の進歩を感じました。

貴重な体験をありがとうございました。

○重本 悠(土木)

最初に訪れた現場は、大橋耐震補強工事をしていた場所でした。そこでは、補強に要するボルトの使い方やトラス構造等を学ぶことが出来ました。

次に、古川樋門新設工事をしている現場に行きました。ここでは、従来のクレーンとは違うジブクレーンについて深く知ることが出来ました。

そして最後に貞光川の護岸工事及び、漏水対策工事をしている現場に訪れました。ここでは、測量などに使われている機材の紹介や使い方を学びました。なかでも一番心に残ったのは、ドローンの使い方でした。写真を撮る以外でも使えるのは驚きました。

私は将来、土木関連の仕事に就職したいと思っていますので今回の建設現場見学会はとてもいい経験になりました。このことを活かし、今後の学習への取り組みや就職活動の方針に役立てたいと思っています。本当にありがとうございました。

○高井耀斗(土木)

私は、現場見学会で土木の仕事がどれだけ地域の役に立っているか分かりました。

初めて橋の下の現場を見たときに、非常に手間をかけて作られているのだと、一目でわかるくらい部材が組み立てられていました。私は、橋は作ってから、定期的に点検をしようと思っていましたが、補強工事をするのは初めて知りました。普段、使われている橋が壊れたりしないように念入りに工事や点検をしていることが、どれだけ重要かわかりました。

1番すごいと思ったのが、スマホを使った測量です。授業ではトータルステーションでして2人必要なのに、1人でする測量に興味を持ちました。

この、現場見学会で建設会社の仕事が暮らしている上で大事なことをしていると改めて分かりました。私も、町のために働けるように頑張ります。

○多田海乃(土木)

私たちは、4か所の現場を見学しました。現場見学は今まで一度参加させていただいたことがありましたが、その時は1か所のみでした。そのこともあり今回のような経験はとても良いものになりました。

最も印象に残っていることとしては、池田大橋耐震工事です。橋の上から見ると、とても工事をしているようには見えなかったのですが、橋の下に続く階段の下に現場が広がっていました。

この見学で、私たちの目に見えないところでたくさんの方がかかわってこの町が作られ、守られていることがわかりました。一度作って終わりではなく、修繕改善したりすることで街の安全を保つことができていると感じました。進んだ技術もある中、仕事する仲間のことや働き方改革などにも目が向けられていました。この職業に関わった仕事につきたいと思いました。

○中川翔太(建築)

出発する前に、つるぎ高校で高木建設代表取締役の高木伸也さんが「SDGs 宣言」について話してくれました。

まず、三好市池田町にある池田大橋の耐震補強工事の現場見学でした。そこでは、支承について、トルシアボルトのしくみや使用用途を教えてくださいました。普段では、立ち入ることもできない所を見学させていただいて、とても勉強になりました。

次に、東みよし町の古川樋門新設工事の現場の見学に行きました。そこでは、吉野川との樋門工事をしていました。それ以外にも、クレーンの操縦をさせていただいたり、樋門の見学をさせていただいたりしました。クレーンの操縦はとても貴重な体験になりました。

最後につるぎ高校付近にある漏水対策工事と護岸工事の現場を見学させていただきました。始めに、漏水対策工事や護岸工事の資料を見ながら説明をしてもらいました。その後に、ドローンの種類の説明をしてくださり、実際に目の前でドローンを操縦してくれました。ドローンにも色々な種類があって、中でも「ファントム RTK」というドローンがいちばん高額でした。いつか自分もそんなドローンを実際に操縦してみたいです。その次に、ICT を使った測量機器をみせていただきました。その測量機器は、軽自動車 1 台分くらいの値段がすると聞いて驚きましたが、今まで 2~3 人でしていた作業が 1 人でできるようになって、作業効率も上がったというのを聞いてその高額な金額にも納得しました。

僕は、建築関係の道に進んでいくので、見学させていただいた仕事をする機会はずっとあると思いますが、今回学んだ、パートナーを大切にすることや、人のために頑張ることの素晴らしさを胸において、これからも自分のやりたい仕事ができるように毎日励みたいと思います。今回は、とても貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

○中山拓海(土木)

今回の現場見学会で、3 社の建設会社の現場見学させていただきました。

最初は、三好市池田町にある国道 32 号池田大橋耐震補強工事の現場を見学させていただきました。現場は、橋の下ということで滅多には入れない光景にドキドキしていました。他にも橋長 294m という莫大な規模の工事やその費用、人数に驚きました。

次に、東みよし町加茂地先にある古川樋門新設工事に参加させていただきました。この地域に住んでいるのにも関わらず、大きな規模の工事をしていることも知らず驚きました。見たことないジブクレーンや堤防を作っている貴重なところを見学させていただいて勉強になりました。

最後は、貞光川（国道 192 号付近）にある漏水対策工事を見学させていただきました。最先端のドローンやスマホ端末を使い早く正確に効率よく技術が発展していることがとても感じられこれからは楽しみに感じられました。

教科書でしか見なかった貴重な現場見学させていただきました。新たな体験や挑戦してみたいことが増えました。また、勉強も人との関係性も改めて考えられました。とてもいい勉強になりました。

○松尾源人(土木)

今回、実際に現場での作業を拝見し、作業員の方たちは、地域の人々が毎日使っている橋や堤防などの土木構造物を汗水流して建てるのだと実感できました。また実際にお話を聞いて、僕も土木の現場で仕事をしたいと強く思いました。

僕が一番驚いた現場は、池田大橋の耐震補強工事です。作業している所に行くときに、高所に慣れていないこともあり建物の足場から風を感じながら川を見ると怖さを感じました。しかし、その足場は怖さを感じないようにしっかりと作られていると聞きました。作業する人の安全を考え、いろいろな配慮がなされていることを知りました。

私は将来建設業に就きたいと思っています。人々の安心で安全な暮らしに貢献できる建設作業員を目指し、これからも努力したいと思っています。

○松家光輝(土木)

僕は、現場体験学習会でいろいろな発見をしました。まず一つは、ICTを使った機械が増えているということです。ここまで掘ると決められて手作業ができるということに驚きました。

今日、4つの現場をみて勉強になりました。初めに行った池田大橋耐震工事を見ることができると聞き、普段橋の下を見ることができないのでとても楽しみでした。実際に見てみると、橋のつくりはとても複雑でした。火災防止のために防災シートを張っていたりして補強などしっかりできていてすごかったです。

僕は、今回の現場見学会に参加させてもらって授業以外のことがたくさん分かりました。ドローンなどが建設業にとっても活躍していることにも驚きました。僕は、就職する際に皆さんに教わったことをしっかり忘れず土木の仕事に就きたいです。

○松村一輝(建築)

最初に見学させていただいた国道 32 号池田大橋耐震補強工事で、実際に作業している方がいて協力しながら部材をとりつけていました。その様子を見てバスの中で高木さんがおっしゃっていた仲間を大切にという言葉思い出しました。ほかの現場でも同様に作業している方たちの雰囲気がとてもよく仲間を大切にしていることをとても感じました。

次の現場は古川樋門では、ジブクレーンの操作をさせてもらいとても感動しました。リモコンで操作しましたがとても緊張しました。溶接をしている人もおり、資格を取得することで、現場でも仕事の幅が広がる事がわかりました。

最後の浸水対策工事では ICT の機械を使っているところを見学し、体験もさせていただきました。現場が進化していると感じました。将来建築関係の仕事につくなら ICT の機械は覚えておきたいです。

普段の生活では絶対に入れない所を見学させてもらい、とても勉強になりました。この経験をいかして将来どんな仕事につくか考えていきたいです。お忙しい中、本当にありがとうございました。

○吉田星汰(土木)

今回現場見学会に参加して、土木業は改めて生活に必要な不可欠なものであると感じました。僕たちの暮らしの安心や安全を守ってくれているのは土木業だと思いました。高木社長から、「パートナーを大切にすること」が最も大切だと教えられ、感銘を受けました。

実際に現場を見学し、全員の協力のもと構造物を作っていくということがわかりました。池田大橋の耐震強化工事では、安全に作業するための足場を組む人、設計する人、実際に作業する人、安全に作業するために交通整理をする人など、たくさんの人がよいパートナーとして協力し、構造物が出来上がっていくということを肌で感じることができました。

僕は将来、土木関係の仕事に就きたいと思っています。今回の見学会で、改めて土木業の魅力を知ることができました。地域の安心安全のために貢献できるように頑張ります。